

# TX沿線百首

青村豆十郎

これは筆者が大学の演劇サークルで小倉百人一首にちなんだプロジェクトを行つていた頃、つくばエクスプレスが開通した記念にその沿線にちなんだ狂歌を百首つくつたもの。新入生の皆さんがつくばを知る上で参考になるかもしれないと思い投稿することにした。

狂歌とはその形式は短歌に酷似しているものの、文学的には全く相容れないモノとして扱われている定型詩。現代でも人気のある川柳や都々逸と比べて大変不遇な死せる文化である。ちなみに、筆者青村豆十郎は現在世界でも十本の指に入る狂歌詠みであると自負している。

TX沿線百首を創る上で苦労したのは歌を詠むことよりもなによりも、百首分のテーマを選定することであった。友人たちにつくばや沿線地域の観光スポットや各種施設について調べてもらい最終的には横に挙げたような構成になった。

《つくば駅》 五首

《県内 TXの各駅》 五首

《中央公園と周辺の施設》 五首

《松見公園と食いたおれ周辺》 五首

《大池公園と周辺史跡》 五首

《筑波山》 五首

《ショッピング》 五首

《つくばらしい風景》 五首

《公園通り》 五首

《筑波大学》 五首

《中央広場周辺風景》 五首

《つくばと並木道》 五首

《つくば市観光施設・商業施設など》 十首

《研究施設のある博物館》 五首

《イベントホール》 五首

《つくば的なモニメント》 五首

《つくばみらい市》 五首

《守谷市》 五首

《嘉寿詠み語呂合わせ》 五首

## 《つくば駅》

つくば駅はセンターにある地下駅。TXの始点である。春・夏・秋・冬・四季の構成になっている。

### 俺たちの時にはバスで受験さと 新入生に語る春先

春、筆者はTXのできる以前に受験した。土浦からバス。あるいは東京からメチャ混みの高速バスを使うしか交通手段が無かつたことを覚えている。

### 地下道に早く降りたい炎天下 熱島各地へ帰省する友

夏は帰省風景。熱島各地は列島各地のもじり。

### 秋葉から下る電車のつくば駅 笑顔を連れて戻る人々

秋は秋葉(さや)じつけ。また、「つくば」と「着く」との掛詞。

## 人々の声はつどいて皆の駅

### わずかに積もる今日の初雪

冬は、市民の要望で出来た駅を表現。対句的な表現技法を使っている。

つくば駅いつもの人の乗り降りの

中にも見える四季の折々

四季は「乗り降り」と「折々」との音あわせ。

## 『県内 TXの各駅』

県内にはつくば駅の他にTXの駅が5駅ある。そこでそれらを一つずつ春・夏・秋・冬・四季の構成で詠んでみた。

## 春雷やみらい平にぶりそぞぐ 雨に匂える都市の風風

春は「みらい平駅」この言いづらい駅名が英語の早口言葉「スペインの平野に雨降り注ぐ」をイメージさせた。空気のきれいな場所ほど雨の排気ガスのにおいが気になる。そんな田舎の情景を詠む。時空間を飛び越えているような感じが気に入っている作品。

## 夏の日のみどりの駅の野の果ての 芝の青々広がり続く

夏は「みどりの駅」近くはゴルフ場ばかり。駅名にも含まれている「の」を何度も重ねて使うことで視界の広がる様を表現してみた。

秋の日の柔き光に乙女らは  
並ぶ柱に見え隠れする

秋は「万博記念公園駅」ガラスとピラーで構成された駅外観からの歌を詠んだ。

交じり合いまた別れ行く人の列  
師走の駅はじつと見守る

冬は「守谷駅」常磐線との交差乗換駅のイメージと守谷の守るという部分からこの歌を詠んだ。

その駅は研究学園という名前  
新しい街出発進行

四季は「研究学園駅」新しくつくば市の総合市庁舎を置く予定があり、周辺地域の開発が期待される。

## ≪中央公園と周辺の施設≫

中央公園はつくばの中央、筑波大学や筑波学院大学とセンターとの間に位置する最重要拠点である。池と芝と散歩道そしてオブジェ、周囲には各種の文化施設がある。春・夏・秋・冬・四季の構成になっている。

春風に誘い誘われふらふらと

さくら集まる公園の隅

春は「さくら民家園」無料かつ風情ある建物。桜の木は近くには見あたらない。太鼓とかお茶とか昔話の語りとかそういうイベントにはもつていいの建物。

夏空のプラネタリウムに見入る子の

真横で親は寝たり起きたり

夏は「プラネタリウム」科学館の中にある。「ぶら寝たりうむ」という語呂合わせ詠み。落語のような風情が気に入っている作品。

天高く馬肥ゆる秋空の先

越えてゆくよなH<sub>2</sub>Oケット

秋は「H<sub>2</sub>Oケット」つくばのランドマーク。学生にはレオナロケットと呼ばれていたこともある。つくばに何かがあつたときに江崎玲於奈氏（ダイオードでノーベル賞を取つた人。筑波大で学長をしていた。）が逃げるために設置してある噂された。もちろんそんな機能は無い。

## 色壁を背に池眺める恋人を さらに眺める小春日の昼

冬は「水上レストハウス」つまり休憩所。市民ギャラリーとしても使える池の上の建物。ここで公演をしたこともある。

### つくば発知識の駅の行き帰り

知るを求めて創るを求めて

最後は「アルス」。これは中央図書館、アルスホール、つくば美術館がセットになった施設である。「アルス」はギリシャ語で学術とか科学という意味。『アルス・アマトリア』のアルスだが、最近の学生はこんな書物は知らないと思う。

## 《松見公園と食いだおれ周辺》

松美と間違やすいので注意。春日キャンパスと天久保キャンパスの間に位置する。この辺りを春・夏・秋・冬・四季の構成で詠んでいる。

### 病院のそばの古書店立ち寄りて

活字中毒の薬を買い帰る春

春は「メディカルセンターと古書店街」とどちらも筆者がよくお世話になる場所。昔は5、6軒はあつた古書店街の古書店も今はすいぶん減つてしまつたのが残念。

## 夏草や松見公園池の中

兵 鯉ひょうのりが我に群ぐんがる

夏は「松見公園の池と芝生」しばうの鯉は恐ろしくでかい。どの鯉も他の池ならヌシで通用するだろう。これは芭蕉の句をふまえた詠み。

## 食欲にスボーツ行楽読書まで

悔いなく遊び倒すあわせぬの秋

秋は天久保の周辺施設、呑みやカラオケなど大学生の手軽な遊び場である。「〇〇の秋」の〇〇に入りそうなものが集まつた場所。

## カラカラと筑波下ろしが抜けていく

栓抜きの穴に俺は立つてゐる

冬は「松見展望タワー」通称せんぬき塔。つくばで暮らしている間に、一度くらいは登つてみるといいかもしない。

## くい倒れそう呼ばれてはいるけれど

学園都市の食を支える

最後は「食いだおれ横丁」。文芸部でミーティング後に繰り出すときも「の辺りが多い。学園祭の打ち上げや新歓、追いコンなどよく利用される。

## 『大池公園と周辺史跡』

筑波山の麓あたり。車がないとあまり行かない場所だと思われる。(二)でも春・夏・秋・冬・四季の構成になつてゐる。

はないが  
花筏越えて魚も音に聞く

春の盛りの 堤の賑わい

春は「大池公園」花見の名所。池の周りに沿つて桜が植わつてゐる。(一)の桜は散り始め以降が私は好き。

夏終わり 平沢官衛訪ね見て

花の頃また来ようと思う

夏は「平沢官衛」奈良平安時代の役所跡。近くに大池公園、小田城趾など。筑波山の眺めも良い。

幼な児をその病難より救わんと  
いわれ残れる子育観音

秋は「慶龍寺」七五三の風景などをイメージ。茨城の七五三は派手らしい。

衣打つ音は途絶えて久しくも

絹きぬ発祥はっしやうの地とや伝わる

冬は「蚕影山神社」砧きぬたをうつのは冬の季語。

## 筑波駅そんな石柱表示票

### 廃線跡に自転車走る

最後は「つくばりんりんロード」土浦～岩瀬間約40キロを走っていた筑波線という線路の跡地がそのままサイクリングコースになつたもの。廃線オタクにも人気。

## 《筑波山》

男体山と女体山の二つの峰があるこの山は『万葉集』にも二十五首採録され、古来より信仰を集めてきた山であることがわかる。やはり春・夏・秋・冬・四季の構成で詠んだ。

## 浮世絵に見るがごとくの岩に梅

ひとあし早い春に浮かれる

春は「筑波山梅林」山の中腹に幾種類もの梅が植わり季節には野点などのイベントもある。

ロープウェイケーブルカーは人の道

### 牽牛織女にカササギの橋

けんぎゅうしづくばし

夏は「七夕祭りなど」。この歌は百首の中でも筆者お気に入りの一つ。筑波山神社は縁結びの神としても有名であるが、七夕もまた「出会い」につながる行事なのである。

### 三色の山がそのうえ 錦着る

#### 賑々しきや紅葉の秋

秋、筑波山は時間帯により色を変える山と言われている。それが紅葉によつてさらに色合いを加える様を詠んだ。

### 初筑波慣れない季語を詠みにけり 藍をなしたる一峰の山

冬は筑波山の「遠景」。「初筑波」は新年の季語。「藍をなしたる」は「愛を成したる」に通じる。

### 季節を越え万葉神代の時代まで

#### 我をいざなうイザナギイザナミ

四季は「筑波山神社」。音を利用した詠み口。

## 《シヨツピング》

つくばでの割合日常的な買い物場所いろいろ。

突然の休講となりや浮かれつつ

少しの遠出で「」LALAガーデン

春は「LALAガーデン」の歌を詠んだ頃は出来たばかりだつた。LALAの響きに合わせ、音の重なりを多用した。「浮かれ」は私にとって春の季語。

何気なく休日に見る蚤の市  
地域の人と話す楽しさ

夏は「フリーマーケット」休日にはけつこう頻繁に行われている。

秋葉には45分でいけるけど

それでも「」にもほしい店々

秋、現在石丸電気がある辺りを「つくばの秋葉原」という、かつては他にも電気店があった。多くは郊外に移っている。なお、TXは秋葉原まで最速45分。

突然の話で決まる鍋。パーティー

買出し班で連れ立つて行く

冬、うちの学生がよく行くのは「ジャスコ SEIBU 学園市場 カスミ」とりせんあたり、「やまや 田上酒店」などで酒類も買う。筑波大学の側では「カワチ まるも ミヤギト」であるうか、また条件によつては「ハナマサ」や「業務スーパー」などにも行く。

駅を出てすぐの川辺に立ち並ぶ  
ショッピング街皆アルファベット

四季、例として「a.i.a.iメール、CREO、Q't、MOG など」

## 《つべばらしの風景》

近代になって突如土地計画が進められた人工の街それが「つべばらし」には自然に発展してきた街とはどこか違う風景がある。そんなつべばらしさを詠んだ五首。やはり季節ごとの構成になつてゐる。

街中に川はなけれど春霞

かかる道路に橋がいくつも

春は「道路橋」多数存在。バス停のある「並木大橋」なども河川にかかる橋ではない。「かかる」は「架かる」「（霞が）かかる」の掛詞。また、つくばでは霧や霞の発生率が高い。

## 名も知らぬ公園のある帰り道

### 夏の夕日にブランコの影

夏は「公園」。つくば市内には緑地などは除いても100以上の公園がある。都市の公園には総合公園・運動公園・地区公園・近隣公園・街区公園・緑地などの種類がある。また、街区公園(半径250m程度の街区に居住する人々が利用する0.25haを標準とする公園)も大きなものが多く、例えば春日キャンパスを出すぐにあるブリーバの横の公園などは街区公園とは思えないほど遊具などが充実した公園である。

### 街中を少し抜ければ眼の前に 実りの秋が収穫を待つ

秋は「郊外の風景」。見渡す限りの田畠の中に突然都市がある。と、とあるマンガの中に書かれているが、本当にその通りである。

### 見渡せば電線のない冬の空 ふくらの雀が並びいの欄

冬。(つくば)は主要な電線が埋設されていて電柱が少ない。ちなみにつくばの地中には総延長約7.4kmの共同溝が埋め込まれ、上水道管、地域冷暖房配管、廃棄物運搬用真空集塵管、電力線、電話線、ケーブルテレビ(ACCS)線などが収容され、これらの工事の際に道路を掘り返す必要がないように配慮されている。ふくら雀とは羽に空気を入れて寒さをしのぐススメで冬の季語。

詠み歌の続きを探して踏むレンガ

遙かにつづくよ。ペデストリアン

四季は「ペデストリアンデッキ」散歩道という意味。複雑に張り巡らされた自転車道、通称ペデ。煉瓦と連歌のイメージを掛詞的に使った。

## 《公園通り》

中央公園から南に延びるペデを通称 公園通りといふ。それに隣接する五つの公園を春・夏・秋・冬・四季の構成で詠んでいる。

春の芝眺めてベンチにいる方が  
長い気がする散歩の時間

春は「洞峰公園」。南の方のかなり大きな公園(県営の総合公園)。

童心に返り立ち寄る公園で  
気にせず浴びる水も視線も

夏は「大清水公園」カピオの前にある噴水のある公園。夏は涼しげで良いが、冬は寒々しい。

## ペデの端折り返し前にひと休み 小さな森にのまれてみます

秋は「赤塚公園」公園通りの南端。運動部などではここまで走つていって戻つてくるなどといふこともあるだろう。行つて帰つてくると6キロくらいの道のりだらうか。

## 風の子の声の聞こえる小公園

暮らしの間にひつそりとある

「竹園公園」は公園通りの公園としては小さいが中央の住宅街に近く子どもたちの姿も多い。

## 二の宮のオルゴール鳴る時計台 住宅街からかすかな音聞く

最後「二の宮公園」は公園通りの中継点。自転車や徒步で行くにはぎりぎりの距離である。

## 《筑波大学》

筑波大学に関しては詠みたい事がいろいろあるが、TX沿線全体を詠むのが目的なので五つで止めておく。いつか、筑波大学だけで百首詠んでみたい。今回入らなかつた開学記念館とか、追越平砂の宿舎とか、新聞とか学園祭とか取り上げたいテーマはいくつもある。

## 橋の昔の人の面影の

### 春日なるかな大学の跡

春は旧図書館情報大学、春日キャンパスである橋(たちばな)は旧図書館情報大学のシンボルであるとともに、その香りは昔の人を思い起<sup>ひ</sup>させるというのが和歌の約束事である。また、「微か」と「春日」を掛詞とし、春日(しゆんじゆ)に昔を思う歌である。お気に入りの一つ。

### 夏の陽<sup>ひ</sup>はまつすぐに射す講堂前

#### 窪地に短き石柱の影

夏は大学会館の大講堂の前にある石柱。「こ」が窪地になつてゐるのは大學で抗争があつても立て籠もりづらくするための工夫であるとされている。

### 一の矢に入る日暮れ時寂しさや ここに筑波の秋は来にけり

秋は大学北端側の一の矢宿周辺。「矢を射る」と「日が入る」と「居る」、「筑波」と「着く」、「秋」と「飽き」、「此処」と「戸々」や「個々」、「来にけり」などの縁語や掛詞を多用した作品。春、夏、秋と、日をテーマとした歌になつてゐる。

### 自転車のスピード上げて過ぎ行けば 池を横切る大氣冷たし

冬は「松美池と大氣の像」松美池は平塚線を越えたところに広がる大き

な池。冬場自転車で通ると風が寒い。その畔には芸術学群の人たちがつくったと思われるオブジェがいくつもあるが、中でも「大気」と題された人物像はもつとも目立つ位置にある。絵画『アテネの学堂』の両折学者を合体させたような像で偶に変な服を着せられている。

## 気が付けば学びの窓の先にある 雑木林に四季の営み

最後は、「キャンパス内の自然」である。学内は無駄に自然にあふれ、目立たないながら果樹、山菜、茸なども豊富にある。また、見れる人が見れば、野鳥や昆虫なども種類、数ともに豊富であることがわかる。

## 《中央広場周辺風景》

中央公園、センター、石の広場、aia.iモール、ジャスコ、学園市場」の辺りのイベントや風景の描写。

## 居ながらに五感に感じる国際色

### 春の終わりにつくばフェスティバル

春は「つくばフェスティバル」このお祭りはつくばの雰囲気を知るために是非行ってみるとおすすめする。露店も国際色豊かで楽しい。各国別の露店に「沖縄」なども混じっていて笑える。筑波ハムなど地元の物産もおいしい。また、この機会につくばエキスポセンターや、そことのプラネタリウムなどを体験しておくのもいいだろう。

## 海外に行つてみたことないけれど いつも乗るバス成田行くバス

夏は「つくばゼンター」の情景。町の中央にあるバス乗り場。IXが出来た後もバス利用者は多い。この歌は私自身ではないが、「ま、こんな帰省手段の人も居るかな」という気持ちで詠んだ。軽く、成田直行のバスもありますよ、というアピール。

## 関東に青森ねぶたが踊る秋

### 同じ日本の祭りと思えば

秋は「まつりつくば」、売りは関東最大の青森ねぶた祭り、なんのこっちゃ。要は伝統が薄いので金で他から祭を買っているのである。出身が青森だつたりしなければそれなりに楽しい。

## 雪の舞うオレンジ色を通り抜け 過ぎ行く人をテレビで眺める

冬、つくば市には地元ラジオは無いが地元テレビはある。夜中などは定期カメラからの映像を映している事が多い。この辺りでは雪は珍しい方だが、降つたら融けづらいという傾向がある。

## 御用なくお急ぎでない人だから オープンモールにロケ車を囲む

四季、つくばは特撮などでロケ地になつていることが多い。買い物帰り、人混みが出来てゐるのでなんだろうと思つて見に行くと撮影中であつたりす

る。「（）用とお急ぎでない方はゆづくりと聞いておいで、」筑波名物ガマ口上の文句である。

## 《つぐばと並木道》

筆者は、自分の名前に樹を含むこともあり、樹木への思い入れが深い。つばは並木通りはどれも立派で、手入れも良くされているという印象がある。また、大通り以外にも旧街道とその名残がいくつか通つていて当時の街路樹が残っていることもあるようだ。

ひとみもさる」とながら見事なり

### 五百本の桜のトンネル

春、「農林研究団地の桜並木」は花見の超人気スポットだが、筑波大生は学内や松見公園で花見をするのが普通だろう。

## 盂蘭盆会早めに戻る研究所

### イチョウ並木はまだ緑色

夏、「工業技術院のイチョウ並木」ほかにも、銀杏を街路樹としている通りは多く、時期によっては落ちたギンナンが臭く、タイヤが種を弾き飛ばすことがあつたりして注意が必要である。

## 名月や櫻に鈴架け振り行きて その色変えて曙過ぎる

秋は筑波大学の中にある、五本の並木通り。すなわち、ケヤキ、ユリノキ、カエデ、スズカケ、アケボノスギを詠み込んだ歌。童謡「雨降りお月さん」のイメージを根底に入れている。

## 江戸期から幾冬越えしか不動松 伊賀七時計も計れぬほどに

冬、谷田部の「不動松」江戸時代からの松並木で県指定文化財。一部は倒木の危険から切り倒されてしまつてている。また、この江戸時代の谷田部には飯塚伊賀七という発明家が生まれ、和時計やからくり人形、機械、建築物などを設計して作つた。彼の物と伝えられる五角堂と和時計は今でも伝わつてゐる。

## この道を行き交う人に自動車に 四季を教えるつぐばの並木

四季で、「詠み漏らした並木通りすべて」、ということにさせてもらう。リストアップするならば、東大通りのトウカエデ並木、西大通りのゆりのき並木、国道408号線モミジバフウ並木、土浦学園線のイチヨウ並木、中央通りの花水木並木。

## 《つくば市観光施設・商業施設など》

これだけは他のテーマの倍の十首集めた。いちおうこの狂歌集の目的がつくば市の発展を願うPR目的のものだからである。構成は春・夏・秋・冬・四季をそれぞれ二つずつ。

匂いたつ君を譽えし花ばかり

芍薬牡丹百合に紫陽花

春一つめは「つくば牡丹園」。立てば芍薬、座ればボタン、歩く姿は百合の花。これが美しい女性のたとえだが、そこに使われるような美しい花ばかり。この植物園は茎崎にあり、牡丹園としては結構有名。

俺たちのゆかりの森さと馴れ初めの

ノロケを語るつくばカッフル

春二つめは「豊里ゆかりの森」。ロッジ、キャンプ場、アスレチック、ラベンダー園、屋外劇場そのほか様々な施設あり。

入道雲ヒゲを剃るのかその腕を

シェーバービルの脇にのばして

「三井ビル」おそらく、つくば一高い建物で、その形から「ひげ剃り」と呼ばれている。「入道雲」が夏らしさ。

この夏にあの毛玉では暑からう

思いをよそにじやれる犬たち

夏の二つめ。「つくばわんわんラノード」つくば市北部にある犬のテーマパーク。80犬種350頭の犬が居る。この種のものとしては結構大きいのではないだろうか。

幼虫の落ち葉の下に居るが 如<sup>ゾ</sup>と

夏の日眠る昆虫標本

秋の二つめ。「豊里ゆかりの森昆虫館」先ほど出てきた豊里ゆかりの森の中にある施設。夏休み中などは結構にぎわっているらしい。

陣中膏ただの蛙のものでなし

売りは芸のみガマの口上

秋二つめ。「観光ガマ園」筑波山の斜面にある。数千匹の蛙を飼う施設。日曜日にはガマ口上なども行われ、ガマ神社もある。つくばらしい観光施設。

ハムべーコン手作りしつつ話する

歐州の村の冬の備えを

冬の一つめ。「筑波ハム」非常においしい。県外のおみやげ品としては高いが喜ばれることうけあいである。人気の観光スポットでもあるらしい。

## 双峰を間近に望む露天風呂

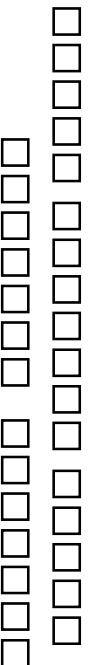
### 出湯の湯気に融ける風花

冬二つめ。「つくば湯」筑波山温泉 双神の湯。へえ一応、温泉があるんだ。という感想。人気は広い家族風呂。恋人同士で入るらしい。

## 何もないウイークデイは映画の日

### 劇場一本レンタル三本

「シネプレックス その周辺」ほとんど授業の無い平日が出来たようなときは映画を見に行くのも良いだろう。つくばで映画館となるとちょっと遠いがシネプレックス。DVDを借りてきて友人と見るのもいい。



(即興で好きな場所をテーマに読む)

作例 (RanRan)

つくばねのはずむようなるRanRanはそのりようで、そつとに知らるる

作例

(牛久大仏)

大仏の目線で見れば氣も広く憂しと見し世ぞ久しくあれかしどうも、コレというのがなかつたので逃げの一手。筆者は即興の狂歌には多少の自信がある。

## 《研究施設のある博物館》

つくばといえど研究所。なんだか立派な研究をしながら博物館という形で一般公開する部分を持つ。大変すばらしいことだが、それをテーマに歌を詠むのは難しい。これと次の《イベントホール》、《嘉寿詠み語呂合わせ》に関しては季節の縛りを外させてもらった。

### 広き庭昼中かけて巡りみて 狭き日本の縮図という人

「筑波実験植物園」あやしい名前である。日本中の植物が植わっている。時季はずれは人も多くないし、特殊なデータスポットにはなるかも。

### 宇宙一大きな夢を描こうよ ロケット一本クレヨンにして

「宇宙開発事業団筑波宇宙センター」JAXAです、昔はNASDAだったかな。日本のNASA。自分が言うのも変だがこの歌の詠み口は恥ずかしい。

### その足で日本全土を知るチャンス

### 東京までを頑張って跳ぶ

「国土地理院 地図と測量の科学館」個人的には結構良い博物館だと思う。

## 幾万年幾億年の彼方より

### ハテナに答える地質標本

「産業技術総合研究所 地質標本館」産総研の博物館。石とか、星とか、虫とか、武士とか、そういうものにやたら詳しい小学生って居ますよね。この歌は「？」と「果て」が掛詞。

## 農林水産業の 絃張る柱

### 母なる地球の恵み調べる

「つくばリサーチギヤラリー」食と農の科学館。シンボルモニュメントの農林水イメージした柱に楽器の三味線のように「三行」の弦を張ったイメージで「調べる」をリサーチの意味と楽器を奏てる意味の二つで使っている。

## 《イベントホール》

この沿線百首づくりは劇団のプロジェクトだったので、つくば市内で演劇の行えるような場所、イベントホールについて一つ一つ取り上げて見たいなあと考え、友人たちにもどんな場所があるか一通り調べてもらつた。結果としてそのような場所は多数集まつたのだが、どれもこれも詠み辛い場所だつた。

### いつだって君に何かが新しい そんな表現伝えるホール

「ノバ・ホール」<sup>a-i-a</sup>キールの上にある音楽ホール。筑波大の音楽系合同イベントである「スプリング・ジョイント」などが行われている。「ノバ」はイタリ

ア語で新しいという意味。

## 玉手箱寄せ木の小箱宝石箱 魔法の箱の集まるところ

「つくばカピオ」四角い演劇ホールを中心とした施設。カピオとはラテン語で箱という意味。ここを使うのは演劇関連のイベントが多い。

## 画期的案件提言大発見

### 実現生み出す巨大会議場

つくば国際会議場「エポカルつくば」。会議や個展、結構大きなシンポジウムなど。民間施設なので借りる時の費用が高い。

## 筑波嶺や食べ男女触愛の歌心憎き

### 座興の俗とよ里の歌垣

つくば市の「市民ホール」五つ。「つくばね、やたべ、くきさき、とよさと、ふれあい、茎崎のふれあい、プラザ」とすべてを詠み込むとともに、歌垣のイメージをつくりて。歌垣とは、特定の日時に男女が集まり和歌を詠み交わす合同コンペのこと。「耀歌(かがい)」とも言う。『万葉集』には「鷺の棲む筑波の山の裳羽服津のその津の上に率(あとも)ひて娘子壯士の行き集ひかがふ耀歌に人妻に 我も交はらむ 我が妻に人も言ことと問へこの山をうしはく神の昔より 禁(いさ)めぬわざぞ 今日のみはめぐしもな見そもとがむな」とあり筑波山に未婚既婚の男女が入り交じりさながら乱交パーティのように歌垣を楽しんだという様子が残っていおり、男体山女体

山とある筑波山は歌垣が最も古くもつとも盛んに行わっていた聖地でもあつたことがわかる。

## 屋下がり風も足留め風ぐぼどに

### 心誘うやアゴラの出し物

つくば市には「屋外ステージ」として用意された場所や、そう成り得る場所がたくさんある。例えばゆかりの森・LALA ガーデン・センター広場・つくばカピオ正面広場・中央公園水の広場などである。アゴラというのはギリシャ時代のポリスに政治交流の場として必ず存在した「廣場」のことを指す。

## 《つげば的なモニコメント》

科学と芸術の併せて学術の色彩に塗りたくられた人工の街つくば市。その結果として随所に建つてゐる未来的で前衛的な各種モニコメントは最もつくばらしさを表してゐるのではないか。どうか。

### 長閑なる春の陽気も無関係

### 今日も素粒子かけつゝしてゐる

「KEK 高エネルギー加速器研究機構の加速器」全体像は航空写真でないと確認できないが、つくばの中心から北に行くと道の横に施設の一部が見られる。サイクロトロンというのは馬鹿でかくてお金の大変かかる長距離走のトラックである。

夕立を集めうけては重からん  
天に向いたる巨大。パラボラ

「国土地理院の巨大パラボランテナ」たぶんずっと真上を向いている。学園と田舎の境目辺りにある。

竜脈の要とならん造形に  
長雨の降る芸術の秋

「竜の塔」すでに取り壊されてしまつたがTX開通を記念して建てられた芸術作品。

竜の塔 ←



冬空の四方を眺むる偉人たち  
よも

科学の門は永くとしえに開く

「万博記念公園内 科学の門」科学万博跡地に作られた高さ十メートル程のオブジェ。見る方向によりアルキメデス、ガリレオ、ニュートン、エジソンの顔が浮かび上がるという。そばにあつた岡本太郎作モニュメント『未来を観る』は今はTX万博記念公園駅の駅前に移されている。ちなみにこの駅から件の公園までは徒歩30分以上なので注意が必要である。

## 一年中自然と科学の結界に 守られた都市安全の街

「四神を象徴する柱」研究学園地区の入り口に立つ風水の四神相応に基づくといわれる呪術装置。道の両側に三本ずつ6本の柱からなり四神に見立てた配色で6箇所に存在する。それぞれ玄武門（東大通り）、青龍門（土浦学園線）、白虎門（エキスポ大通り）朱雀門（牛久学園通り）、その他中央付近には、田園都市ゲート（県道5号 東大通り）と研究都市ゲート（県道244号 西大通り）がある。

## 《つくばみらい市》

TX沿線で茨城県内つくば市以外の市町村といふことで守谷市とつくばみらい市を五首ずつ詠んだ。どちらも春・夏・秋・冬・四季の構成になっている。

## 桜木の一マイルほど続く道 福岡堰の柔らかな春

春は「小貝川福岡堰」。旧谷和原村の桜の名所。

## 境内にあやつりは舞う炎あげ 綱火が茨城伊奈を彩る

夏は「綱火」。からくり人形花火、なんかすごそう。でも実際には見たことが無いので想像で詠んだ。

## 秋風に身を縮めしもカチヽコの 音より先は鰯背な江戸つ子

秋は「ワープステーション江戸」江戸時代体験テーマパーク。時代劇の撮影に使われる」とも多い。

## 海峡にその名を残す林蔵の 故郷の墓に残る思いを

冬は「間宮林蔵記念館」。間宮海峡の、間宮林蔵生誕の地なんだそうです。

## 稻や藁縫りあう縄の長くある

### 歴史と伝統未来の展望

つくばみらい市は伊奈町と谷和原村の合併ということですが、「伊奈谷和原」「寄り合ふ」と掛けた詠みで言祝ぐ。

## 《守谷市》

県南の玄関口に 逸早く  
いはや

列車とともに春訪れる

春、守谷市は二つの県境に位置する。

月並みと言われようとも夏だもの  
ビールを詠まずに居られるものか

夏、「アサヒビール茨城工場」は人気の観光スポット。

常々は書斎派氣取る我とてても  
公園に出てスポーツの秋

秋は「常総運動公園」。

冬 来ぬと眠り支度の森や川  
き

人も 其処此処買出しに出で

冬は「市境全てが川である守谷市」。利根川鬼怒川小貝川の「とね」「きぬ」「うかい」と「かわ」「もりや」を詠みこむ。

# 桜木に躊躇木槿に紅葉まで

## 木々の色あや廻る四季の池

守谷市の最後は「四季の里公園」でうまく収まつた。

# 嘉寿詠み語呂合わせ

群馬県の県境、碓氷峠に「一つ家の歌」と呼ばれる歌碑がありそこには

八万三千八 三六九 三三三四七

一八二 四五十二四六 百々四億四百

とある。これは「山道は 寒く 寂しな 一つ家に 夜毎に白く 百夜置く霜」と詠む。つまり数を使った語呂合わせ。作者は武藏坊弁慶と伝えられている。

これにヒントを得てつくったのが最後の五首。横書き表現のものが三首含まれる。

九百四六 八万二一八七三九 十百八三四

三七三二四六八 九 万千七三

(雲白く 山に花咲く 友優し 皆身に染むや こここの町並み)

$$\begin{array}{r} \text{み} \quad \text{な} \quad \underline{\text{7}} \quad \underline{\text{7}} \quad \underline{\text{7}} \quad \text{荷} \quad \underline{\text{2}} \\ \hline (\text{急行列車 } 9 \ 5 + 9 \ 5) + (\text{しあわせ } 4 + 4) \\ \text{サンキュー} \\ = 3 \ 9. \ 2 \ 5 \ 2 \ 5 \ 2 \ 5 \cdots \\ \text{にこにこにこにこ}^{\cdots} \end{array}$$

※読み↓

(皆や荷を乗せて幸せ急行列車 ありがとうとの笑顔あふれる)

計算もあってます。

二零二零二一九八 四六九  
 百京 四三七四 億百 一京 兆千百  
 (徒然に筑波詠むこの挑戦も百景詠みなしおくも一興)

$$\begin{array}{r}
 2\ 9\ 8 \\
 1\ 0\ 0\ 6
 \end{array}
 =
 \begin{array}{r}
 3\ 6 \\
 1\ 9
 \end{array}
 \quad
 \begin{array}{r}
 8\ 4\ 0\ 4 \\
 2\ 2\ 9\ 4
 \end{array}
 \quad
 \begin{array}{r}
 T\ X \\
 1\ 0 = 2
 \end{array}$$

※読み↓

(筑波山麓 走れよ TX 線路は遠く 続くよ永久に)

破調の一首。

$$\begin{array}{r}
 2\ 9\ 8 \\
 1\ 3
 \end{array}
 -
 \begin{array}{r}
 1\ 0\ 0\ 6 \\
 1\ 0
 \end{array}
 +
 \begin{array}{r}
 4 \\
 8
 \end{array}
 \quad
 \begin{array}{r}
 +\ 5 \\
 1\ 0
 \end{array}
 \quad
 \begin{array}{r}
 +\ 1\ 0 \\
 4\ 6\ 5\ 8\ 4\ 8\ 7
 \end{array}$$

※読み↓

(つくばから線路がひかれ仕事増え

いちさと発展喜ばしやな)

「いちさと」は茨城・千葉・埼玉・東京の沿線4県の頭文字をつなぎだものでTX周辺開拓のキーフレーズとして使われている。